

<目的> 婦人服は、その服種（ワンピースドレス、スーツ、スカート等）のみならずデザインが多種多様であるため、紳士服に比べ布の品質を一義的に論じることが難しい。本報では、実際に着用経験を通じて、美しく優れた外観を持ち、かつ着用感の良い衣服の残布を日本繊維機械学会風合い計量と規格化研究委員会の協力を得て収集し、婦人服の形態的な分類を行った。これらの布の力学的性質を検討し、衣服デザインに適合した素材の力学物性、あるいは素材に適合した衣服デザインのための基礎資料を得ることを目的とした。

<方法> 試料は、KES-FBシステムで計測可能な、たて、よこ7cmから20cmの正方形あるいは長方形とし、縫製専門家および家庭縫製の経験のある人を中心に広く一般から収集した。同時に各試料についての情報を質問紙により収集した。その項目は、服種（使用目的）、フィット性（構築的なデザインあるいはルーズフィットなデザイン）、使用季節、簡単なデザイン画、着用感などである。収集された196種の試料について基本力学特性を測定し、衣服の外観の美しさや、シルエットに関わる形成能、弾性保有能、ドレープ能を決定する力学量パラメータを算出して、これらと服種およびデザインとの関連を判別分析の手法を用いて分析した。

<結果> 婦人服の代表的な服種に適した素材を、曲げ、せん断特性、および単位面積当たりの重量から判別する判別式を導いた。また、各服種において、フィット性が強く着用者の体型を表現するデザインに適した素材のグループと、ゆとり量の多い布のハンゲやドレープ性を生かしたデザインに適した素材グループも同様の手法で判別し、今後の系統的な婦人服の服種、形態と布の力学特性との関連づけの可能性を見いだした。